



2025年5月期 第2四半期 決算説明会

2025年1月24日

三光合成株式会社
[東証 プライム市場 7888]





I 会社概要

II 2025年5月期第2四半期 決算概要

III 2025年5月期 連結業績予想

IV 中長期の取組み

I 会社概要

会社概要



社 名 三光合成株式会社 (SANKO GOSEI LTD.)

代 表 者 代表取締役会長 黒田 健宗
代表取締役社長 久住アーメン

本 社 富山県南砺市土生新1200番地

資 本 金 4,008百万円

創 業 1940年10月12日

設 立 1944年 9月18日

従 業 員 単体：729名 連結：2,861名 (2024年11月末現在)

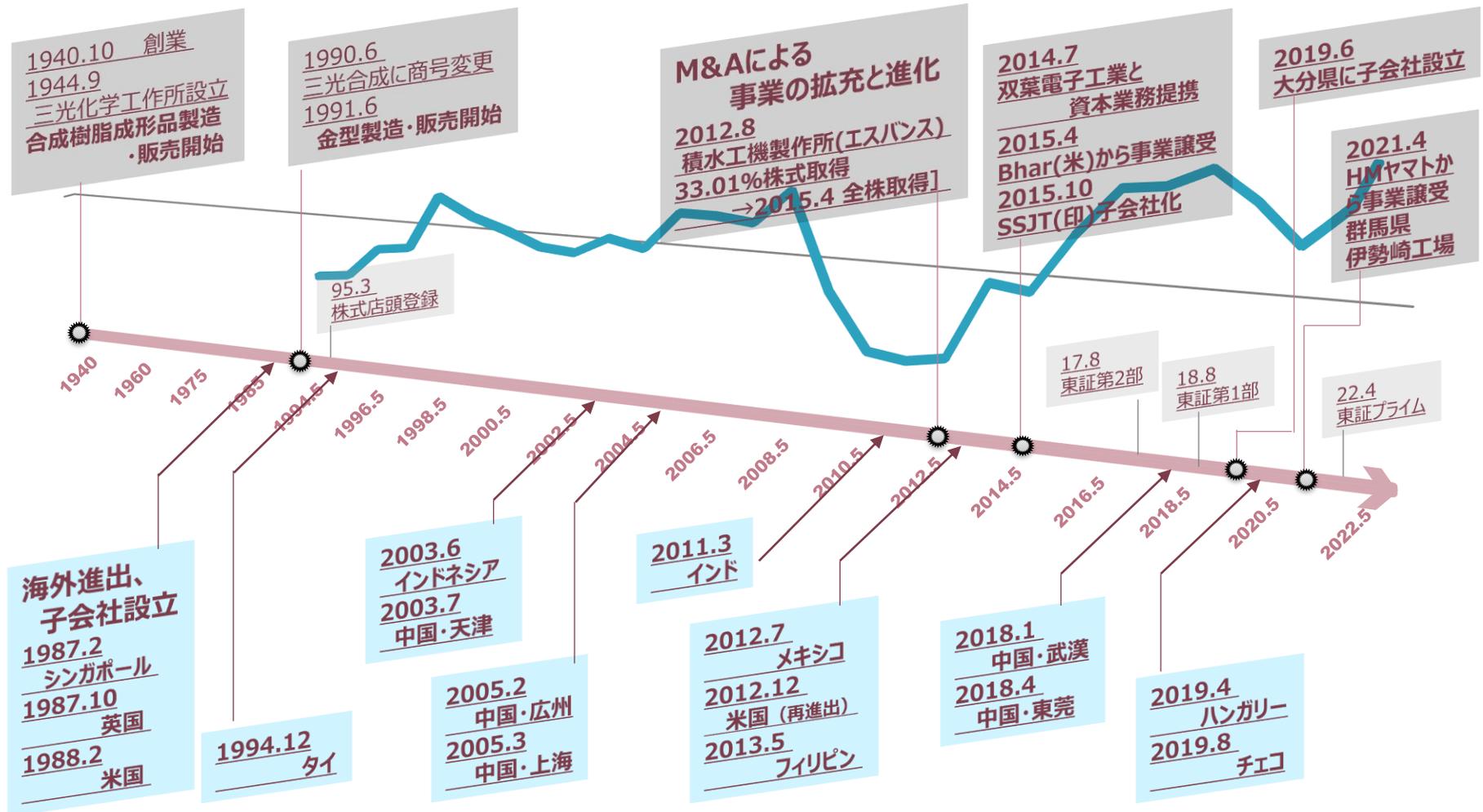
事 業 内 容

- 成形品事業
 - ・ 情報・通信機器部門
 - ・ 車両部門
 - ・ 家電その他部門
- 金型事業

成長の軌跡 | 車両・電子機器向け樹脂成形大手、海外売上過半



完成車メーカーのグローバル生産体制を支える不可欠な存在へ



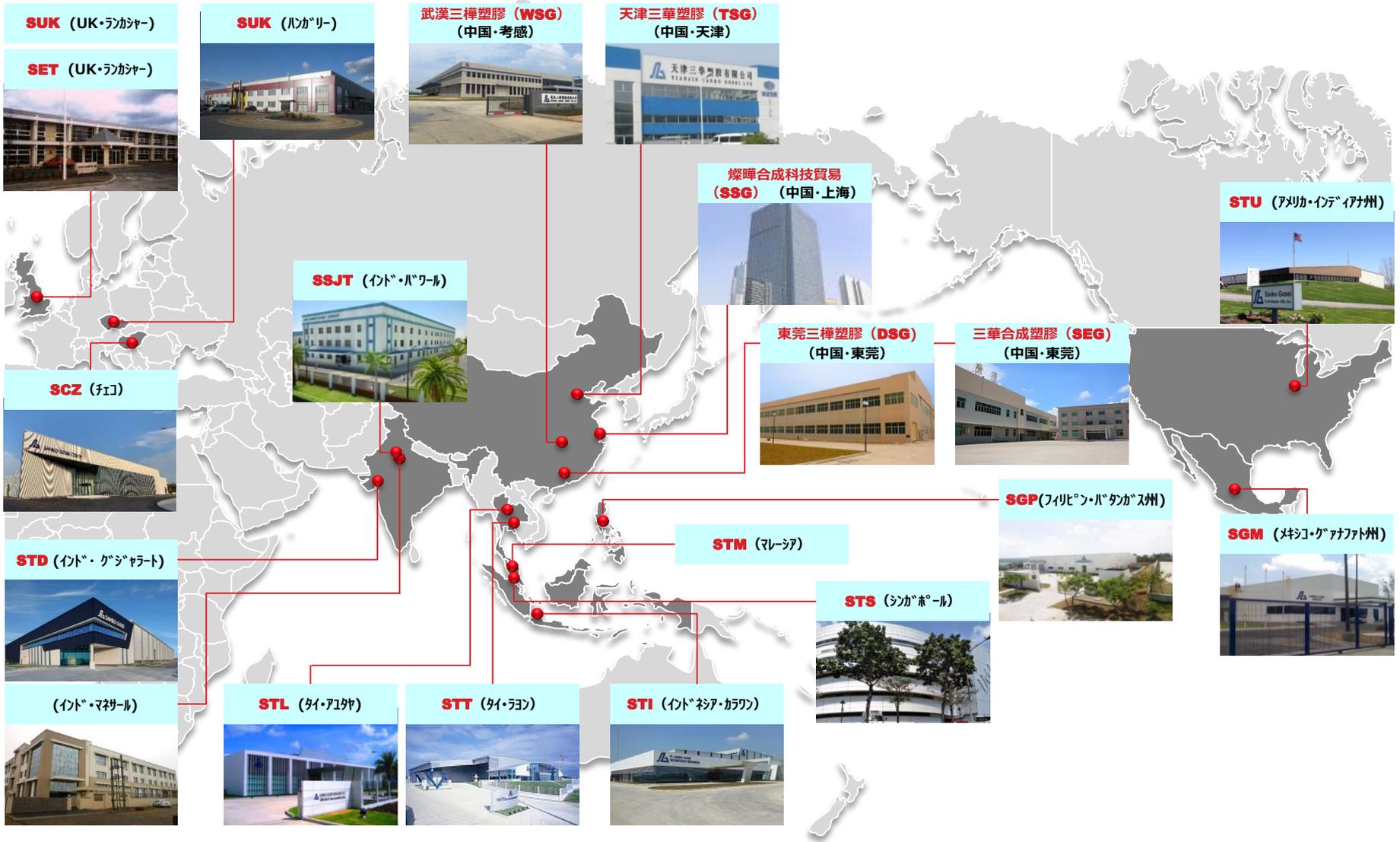
国内拠点 | 成形8工場 金型2工場 営業所5拠点



■ …成形工場 ■ …金型工場 ■ …営業拠点

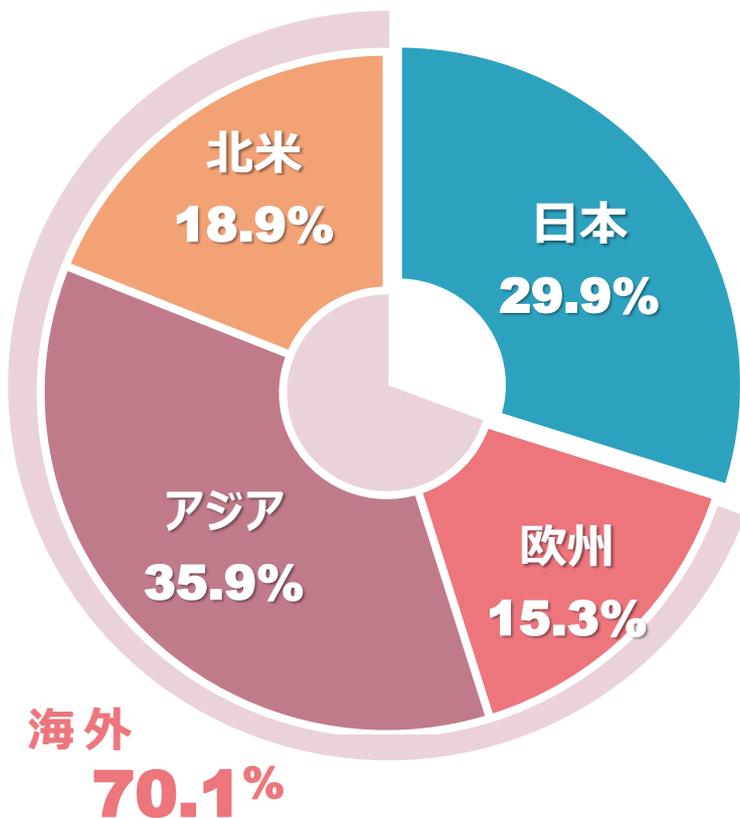


海外拠点 | 12ヶ国／17法人

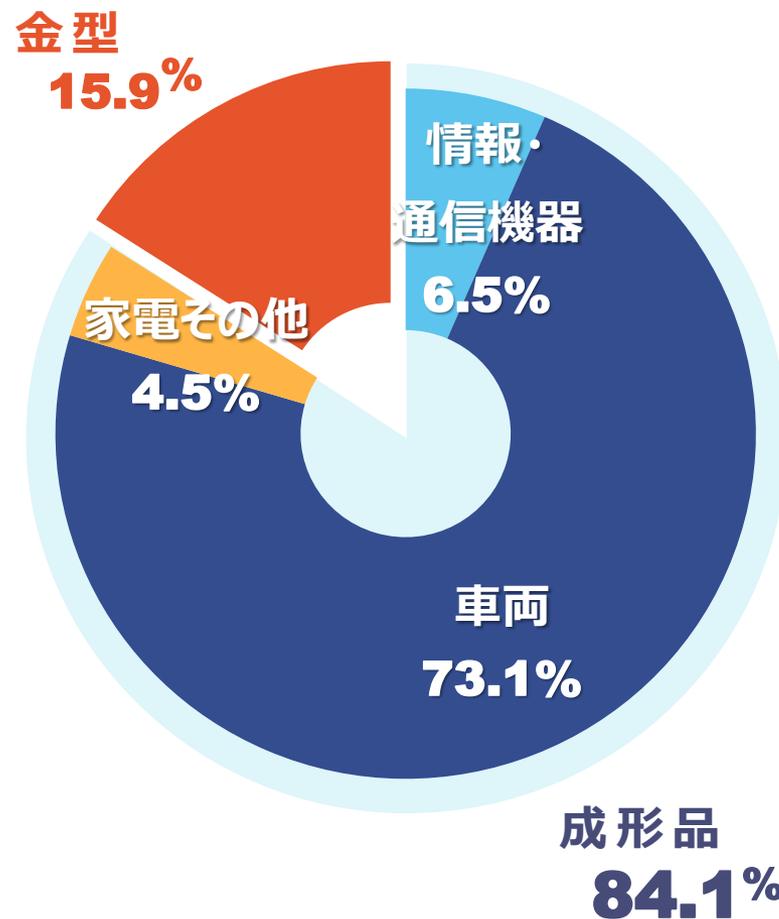




地域別



事業部門別



※本資料中では、構成比の数値は四捨五入の関係で合計が100%にならない場合があります



通常、部品メーカーが外注する **金型設計・製作部門を内包**
顧客ニーズを汲み取り大量生産に耐える金型を設計・製作
大量生産開始後の不具合発生時も即ソリューション実行

当社の製品生産フロー

通常、部品メーカーが外注する部分

**顧客の
製造現場での
悩みとニーズ**



製品設計

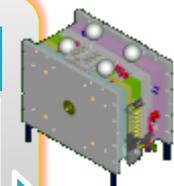
- お客様へ駐在し設計対応

金型設計・製作

CAE解析

- 86年国内草分けとして導入
- 金型メーカーとして最長のレコード保持

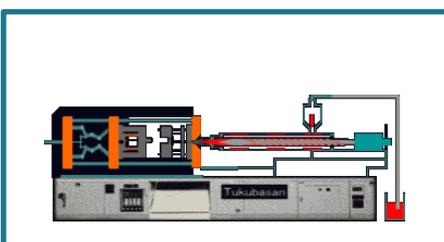
• スタート段階から大量生産に耐える設計
• ...
• 專業金型メーカーとの最大の違い



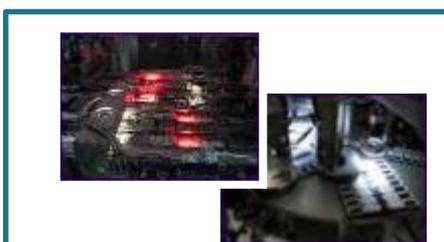
省力化機器製作



量産



品質管理



納品



Ⅱ 2025年5月期第2四半期決算概要

2024年6月1日～2024年11月30日

2025年5月期第2四半期 決算総括



- コロナ禍からの経済活動の正常化が進み、緩やかな景気回復基調にある一方で、不安定な国際情勢、原材料価格やエネルギー価格の高騰、長期金利の上昇、諸物価の上昇や為替相場の急激な変動など先行きは依然不透明な状態。その中、高付加価値製品の受注と生産体制の整備を強化し、原価低減活動を積極推進し、前年同四半期比減収ながら増益となった。営業利益、経常利益は過去最高。

● 売上高	457 億 77 百万円	前期比	0.3 %	↓
● 営業利益	29 億 53 百万円	前期比	44.7 %	↑
● 経常利益	26 億 46 百万円	前期比	33.8 %	↑
● 当期純利益	19 億 27 百万円	前期比	44.7 %	↑

■ 地域別売上高	日 本	前年同期比	3.9 %	↑	148 億 74 百万円
	欧 州	前年同期比	4.6 %	↓	60 億 18 百万円
	ア ジ ア	前年同期比	11.7 %	↓	152 億 63 百万円
	北 米	前年同期比	20.1 %	↑	96 億 22 百万円

■ 事業部門別売上高	成 形 品	前年同期比	1.0 %	↓	386 億 92 百万円
	金 型	前年同期比	3.5 %	↑	70 億 85 百万円

※本資料中では、「当期（又は四半期）純利益」の表記は「親会社株主に帰属する当期（又は四半期）純利益」を意味します

2025年5月期第2四半期 損益状況

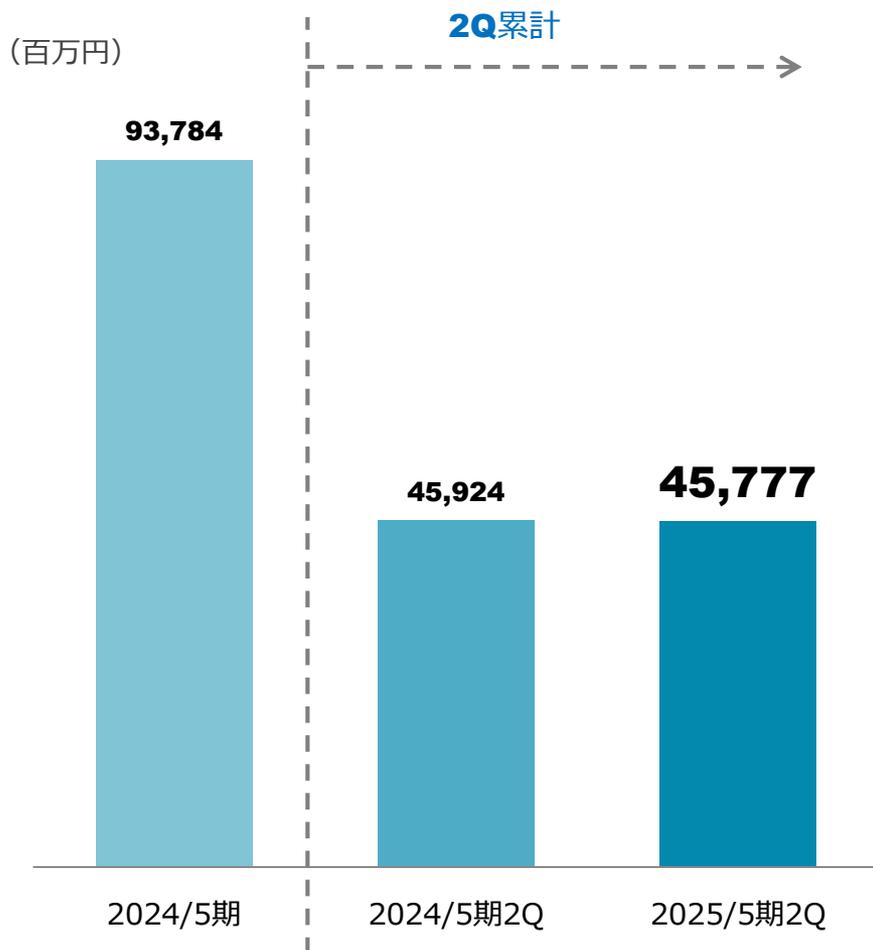


	2024年5月期 第2四半期実績		2025年5月期 第2四半期実績					
	金額 (百万円)	売上高比 (%)	金額 (百万円)	売上高比 (%)	前年同期比		対通期業績予想、進捗	
					増減額 (百万円)	増減率 (%)	通期業績予想 (百万円)	進捗率 (%)
売上高	45,924	—	45,777	—	▲147	▲0.3	95,000	48.2
売上原価	39,392	85.8	38,113	83.3	▲1,279	▲3.2	—	—
売上総利益	6,531	14.2	7,664	16.7	+1,133	+17.3	—	—
販管費	4,490	9.8	4,710	10.3	+220	+4.9	—	—
営業利益	2,041	4.4	2,953	6.5	+912	+44.7	4,800	61.5
経常利益	1,977	4.3	2,646	5.8	+669	+33.8	4,400	60.1
四半期純利益	1,331	2.9	1,927	4.2	+596	+44.7	2,900	66.4

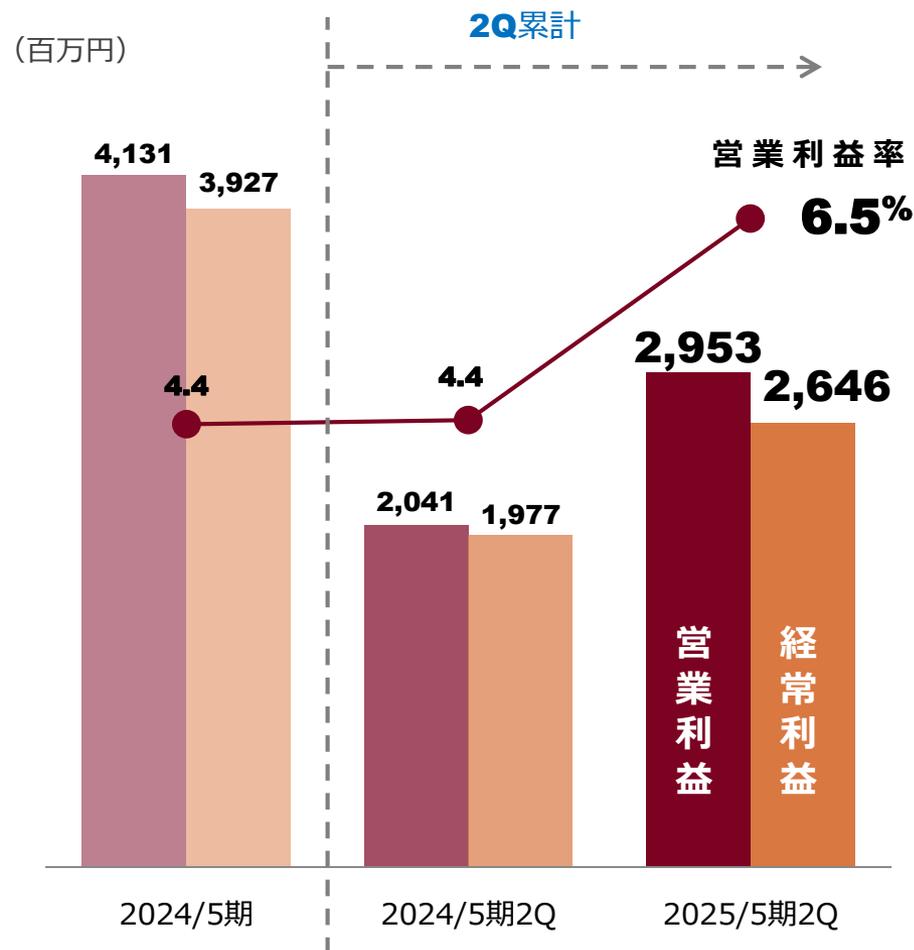
売上高・営業利益・経常利益の推移



売上高



営業利益・経常利益 / 営業利益率



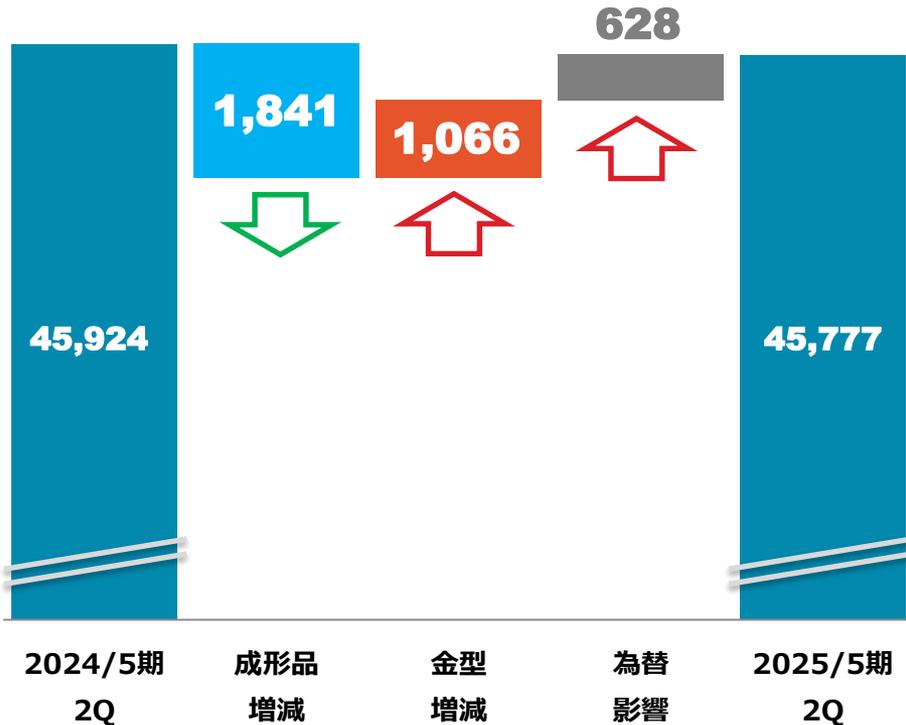
売上高・営業利益の増減要因分析



売上高

(百万円)

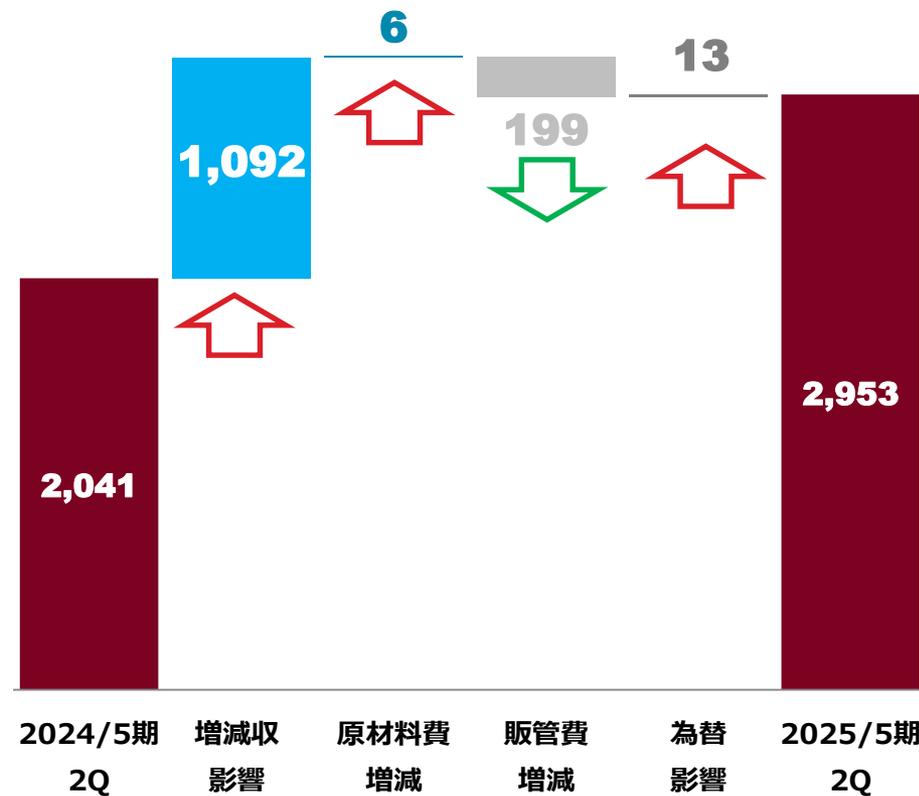
— **147↓** →



営業利益

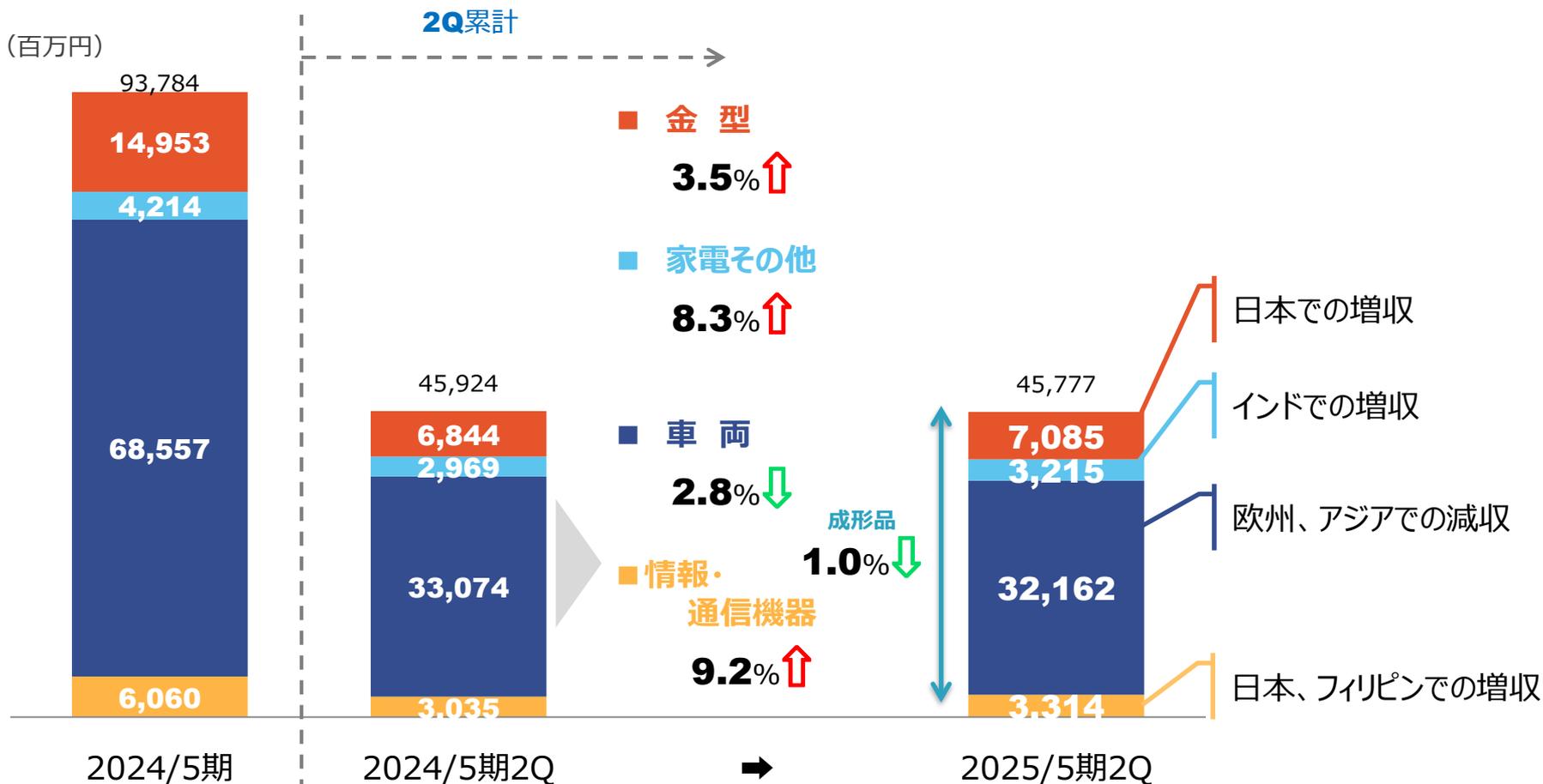
(百万円)

— **912↑** →





事業部門別売上高

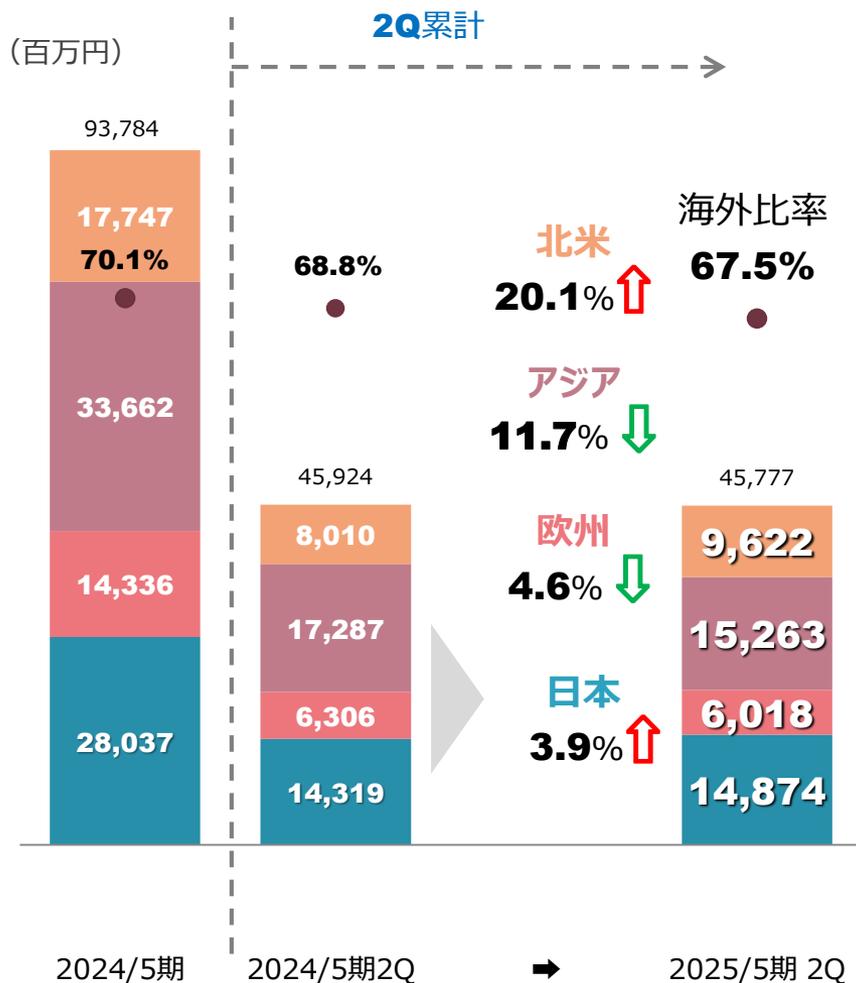


※本資料中では、各内訳数値の単位未満の端数処理の関係でその計と合計が一致しない場合や増減率の数値が一致しない場合があります

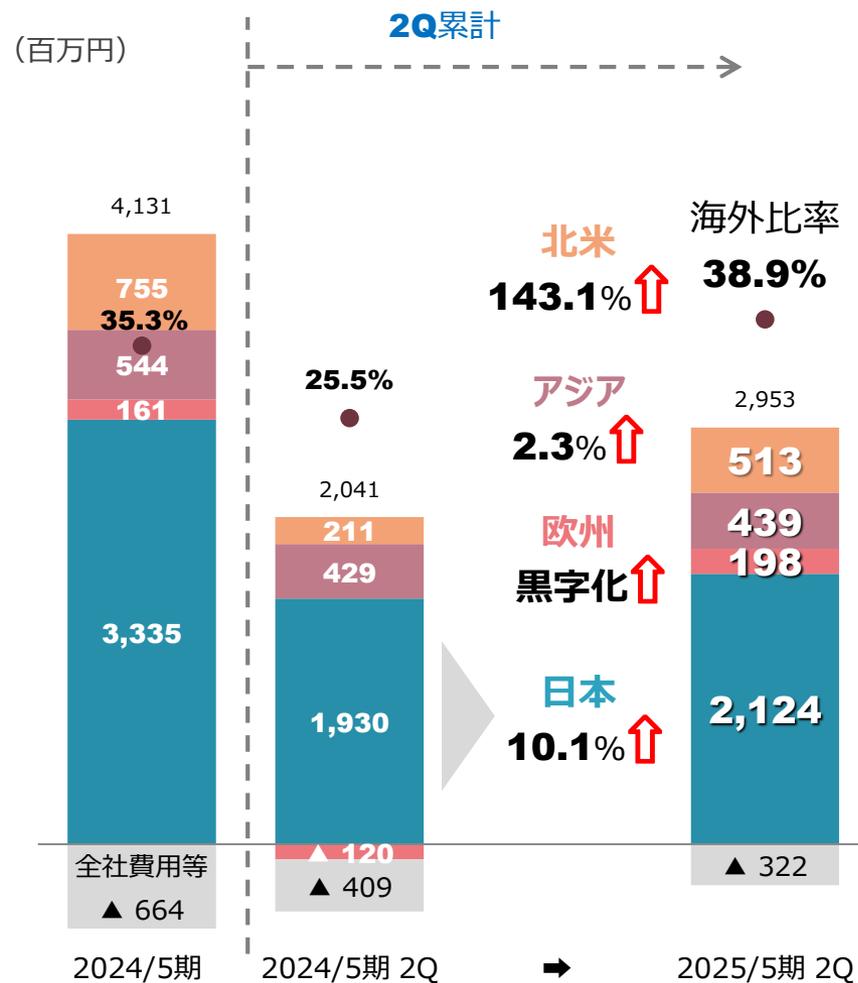
地域別売上高・営業利益の推移



地域別売上高 / 海外比率



地域別営業利益 / 海外比率



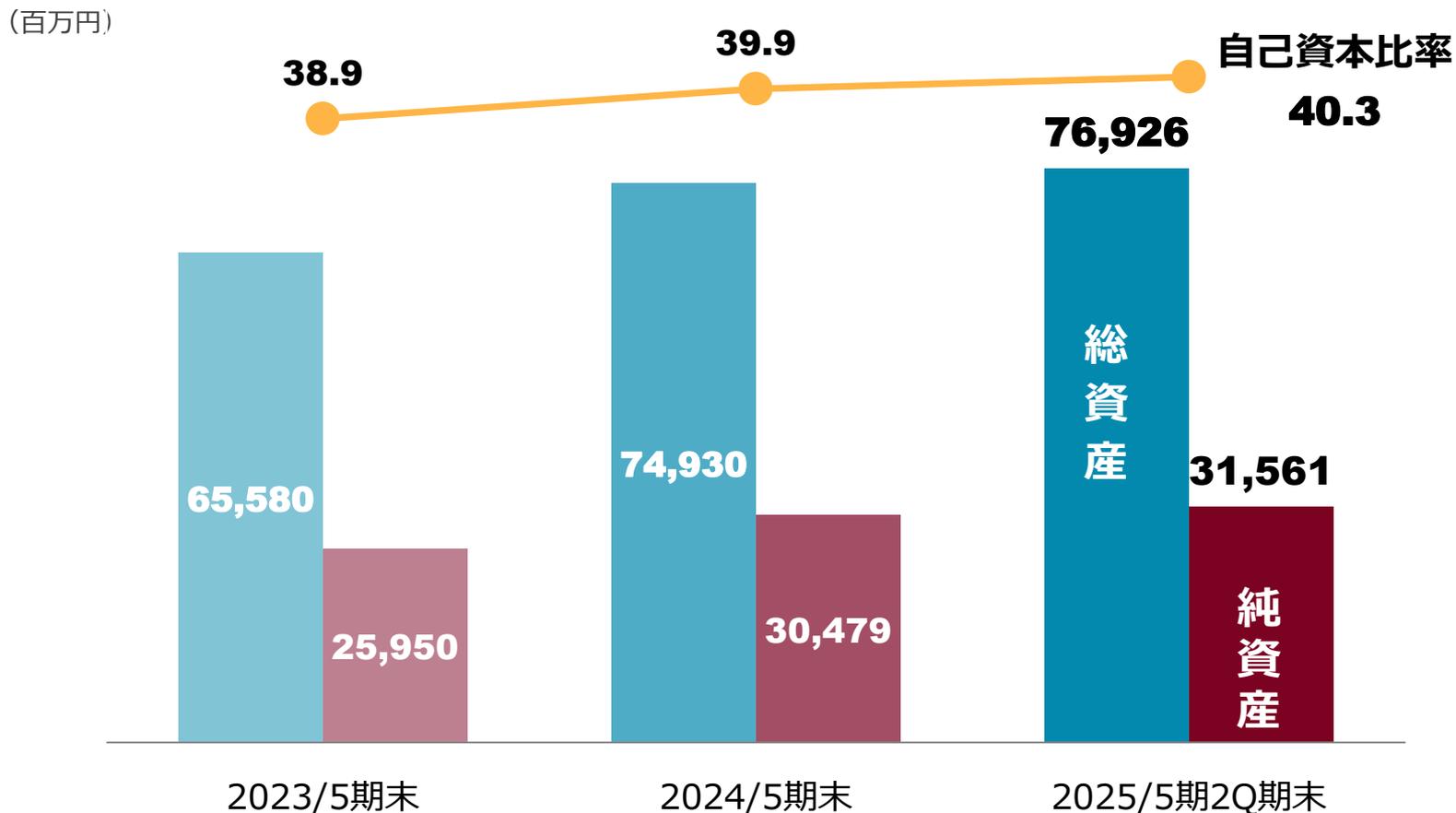
2025年5月期第2四半期 財務状況



	2024年5月期末 2024.5.31		2025年5月期第2四半期末 2024.11.30			
	(百万円)	構成比 (%)	(百万円)	構成比 (%)	前期末比増減額／主な増減要因 (百万円)	
■ 流動資産	40,987	54.7	42,366	55.1	+1,379	現金・預金 +898
■ 固定資産	33,942	45.3	34,560	44.9	+618	有形固定資産 +762
資産合計	74,930	100.0	76,926	100.0	+1,996	
■ 流動負債	33,032	44.1	33,010	43.0	▲22	支払手形・買掛金 +915
■ 固定負債	11,418	15.2	12,354	16.0	+936	長期借入金 +1,015
負債合計	44,450	59.3	45,365	59.0	+915	
純資産合計	30,479	40.7	31,561	41.0	+1,082	利益剰余金 +1,622
負債純資産合計	74,930	100.0	76,926	100.0	+1,996	



総資産・純資産 / 自己資本比率



2025年5月期第2四半期 キャッシュ・フロー状況



	2024年5月期 第2四半期	2025年5月期第2四半期	
	(百万円)	(百万円)	主なキャッシュ・インフロー／アウトフロー(百万円)
■ 営業活動によるキャッシュ・フロー	1,782	3,709	税前四半期純利益 +709 減価償却費 +146
■ 投資活動によるキャッシュ・フロー	▲2,108	▲2,527	有形固定資産取得 ▲2,490
フリー・キャッシュ・フロー	▲326	1,182	
■ 財務活動によるキャッシュ・フロー	▲176	▲173	長期借入金借入 +2,500 長期借入金返済 ▲1,325
現金及び現金同等物の 増減額	▲225	898	
現金及び現金同等物の 期首残高	8,775	9,958	
現金及び現金同等物の 期末残高	8,549	10,857	

Ⅲ 2025年5月期 連結業績予想

2024年6月1日～2025年5月31日

2025年5月期 業績見通し | 売上高過去最高を更新



- 米国政権移行に伴い、先行き不透明な状況が続くが、引き続き高付加価値製品、金型の受注活動を積極化するとともに、安定した収益構造の確保と経営体質の強化を図る。売上高、利益で過去最高を更新し、増収増益を目指す。

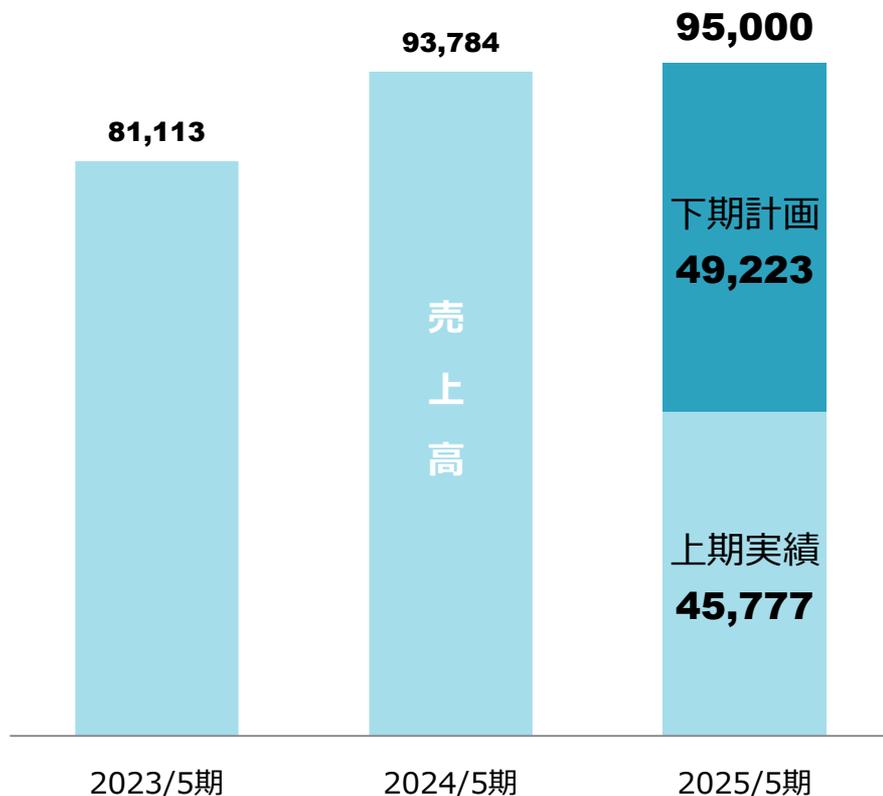
	2024年5月期 通期実績		2025年5月期 通期計画			
	金額 (百万円)	売上高比 (%)	金額 (百万円)	売上高比 (%)	前期比 増減額 (百万円)	増減率 (%)
売上高	93,784	—	95,000	—	+1,216	+1.3
営業利益	4,131	4.4	4,800	5.1	+669	+16.2
経常利益	3,927	4.2	4,400	4.6	+473	+12.0
当期純利益	2,612	2.8	2,900	3.1	+288	+11.0
1株当たり 当期純利益	85. ⁷⁰ 円	—	95. ¹³ 円	—	+9. ⁴³ 円	—
1株当たり 配当金	20. ⁰⁰ 円	—	20. ⁰⁰ 円	—	+0. ⁰⁰ 円	—
ROE	9.4%		9.7% (予想)			

売上高・営業利益・経常利益の見通し



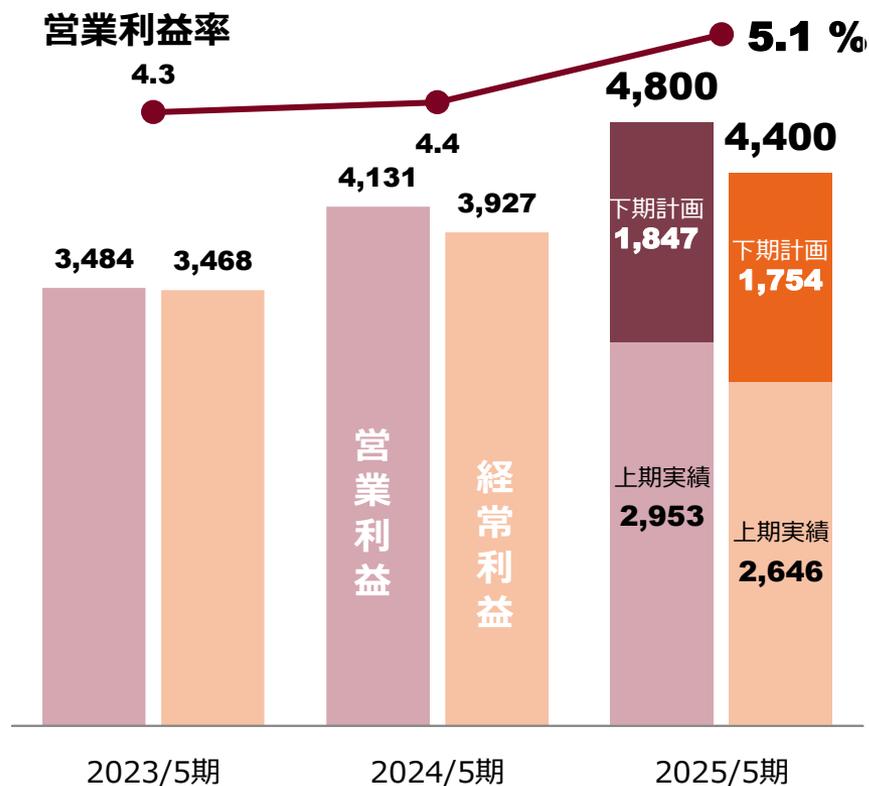
売上高

(百万円)



営業利益・経常利益 / 営業利益率

(百万円)

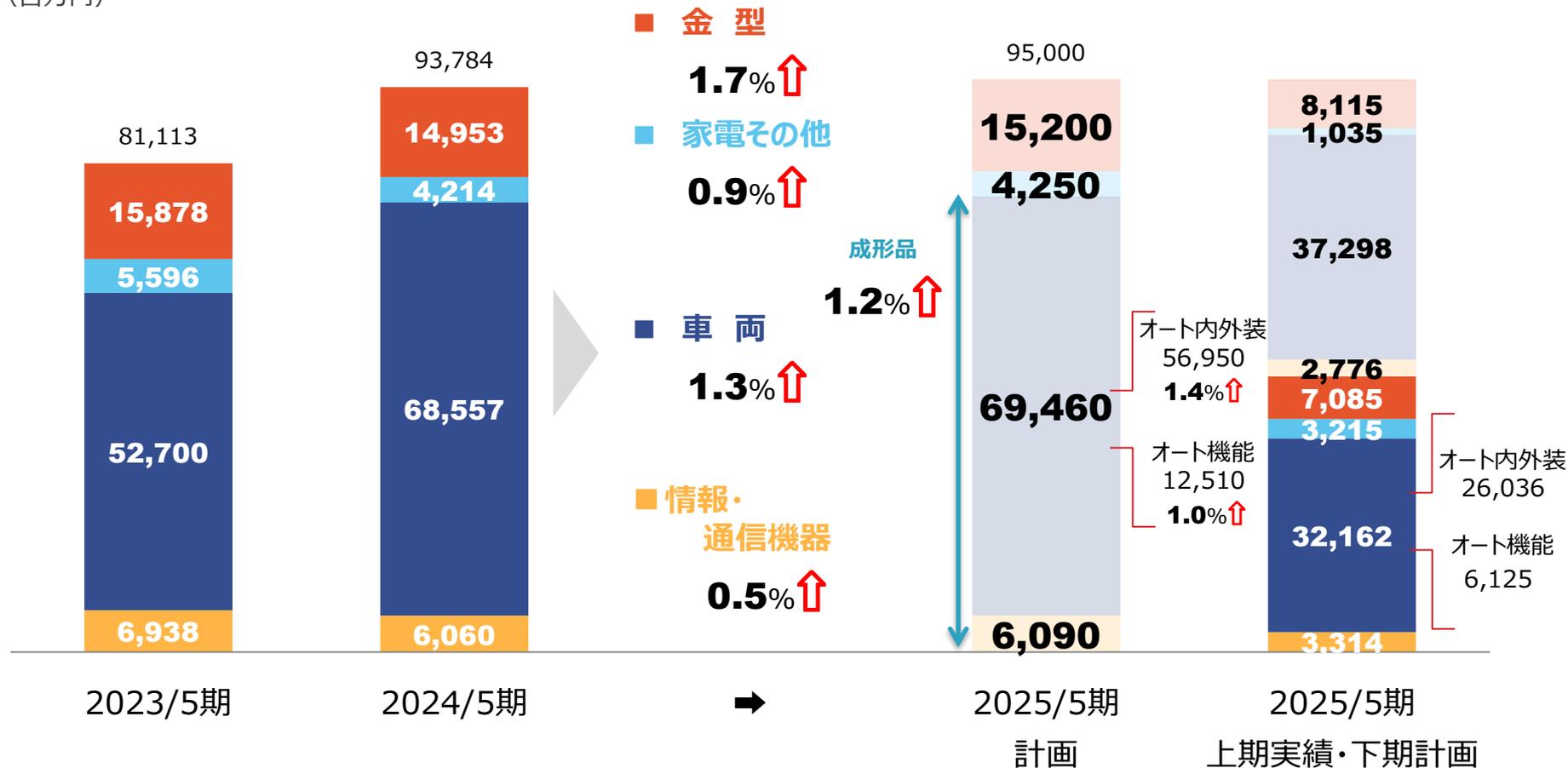


事業部門別売上高の見通し



事業部門別売上高

(百万円)

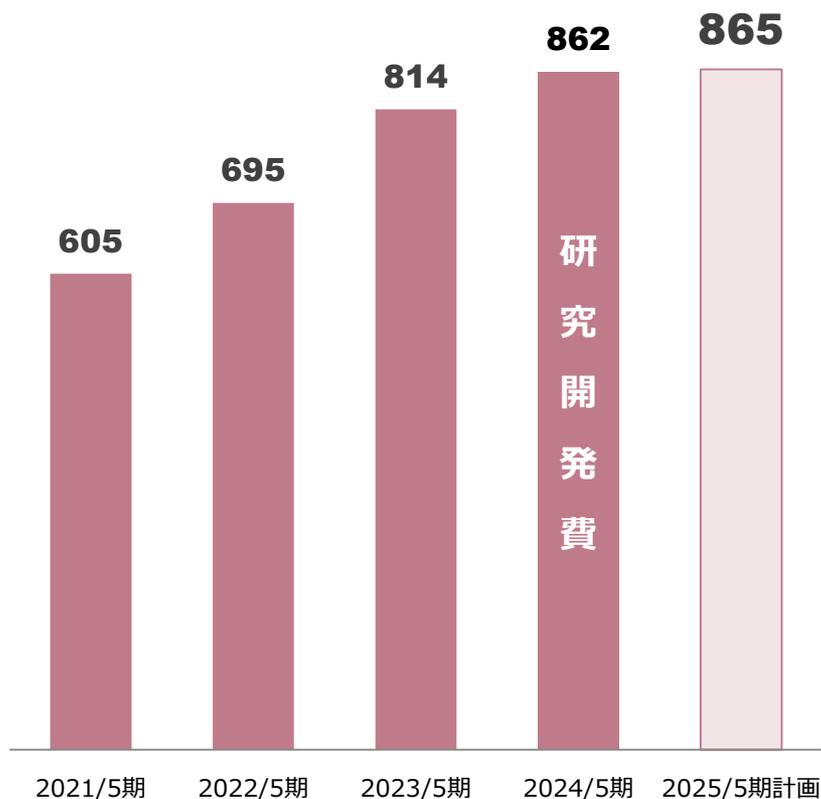


研究開発費、設備投資額・減価償却費の見通し



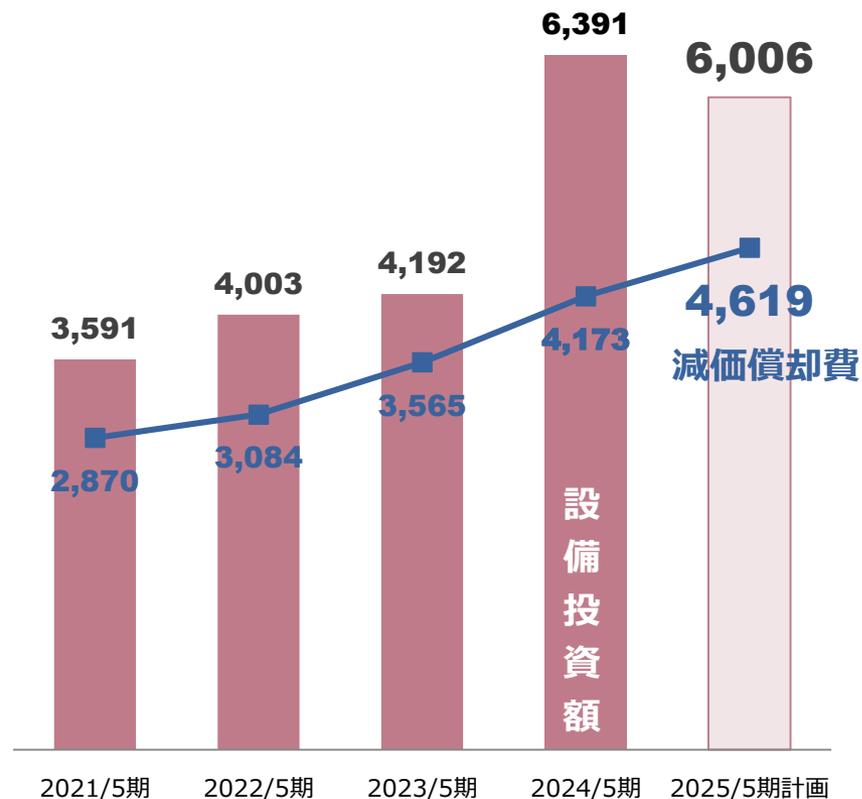
研究開発費

(百万円)



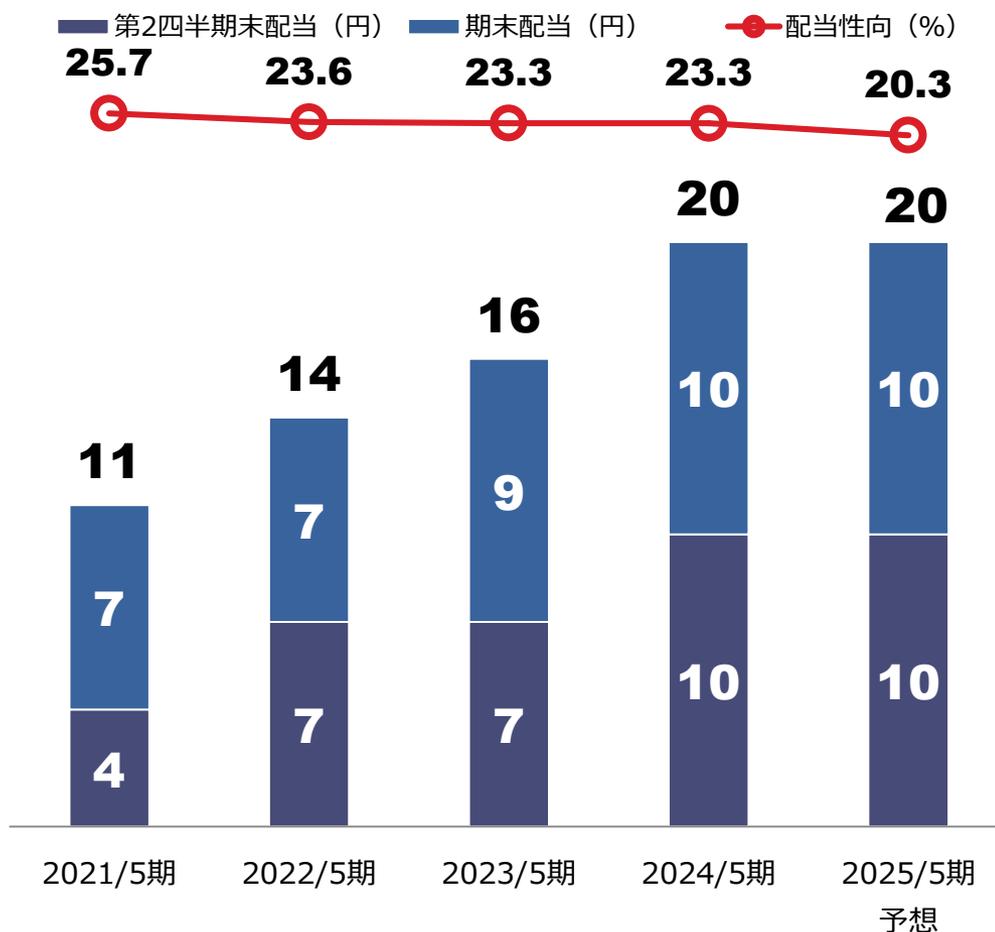
設備投資額・減価償却費

(百万円)





年間配当金の推移



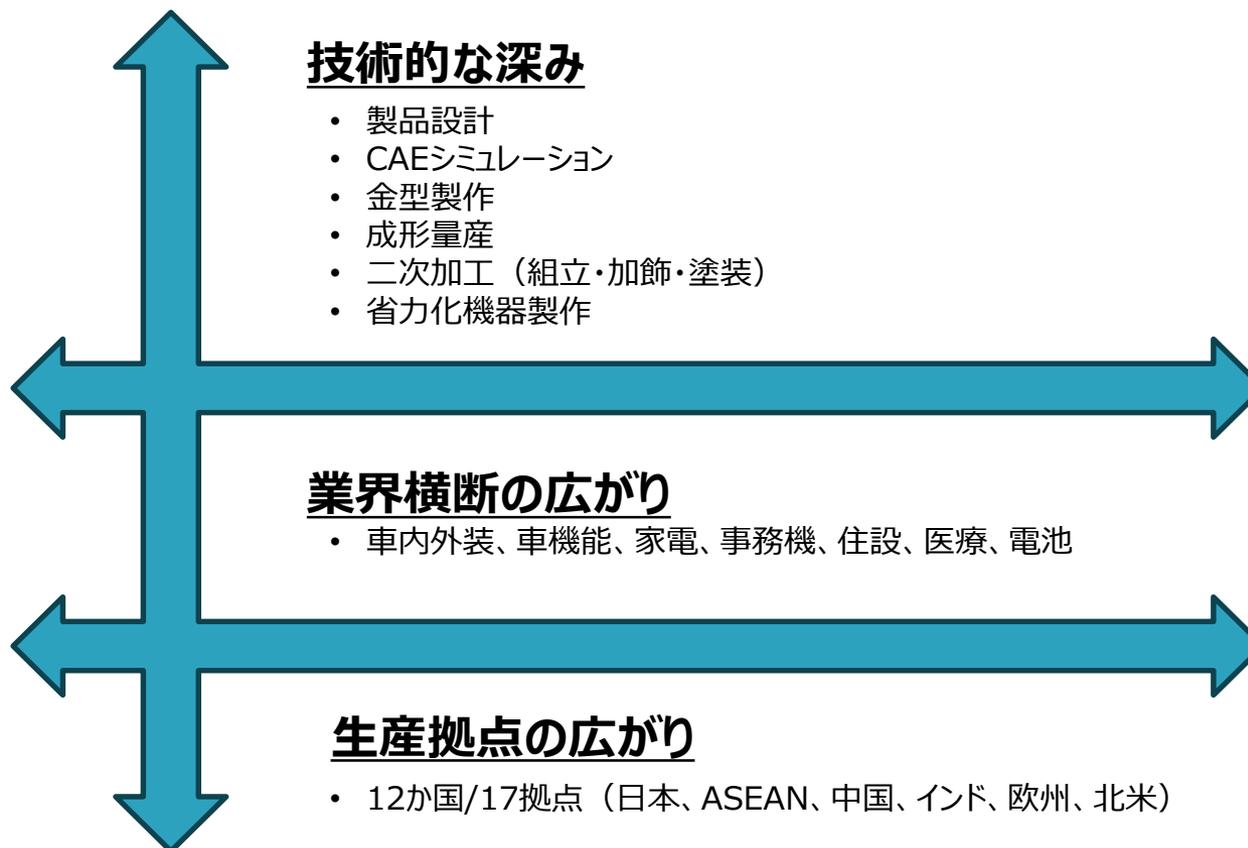
配当基本方針

安定的な配当を継続していくと同時に、業績に応じ積極的に株主に還元

内部留保資金

競争力の維持・強化や経営基盤拡充のため、設備投資や開発活動に充当

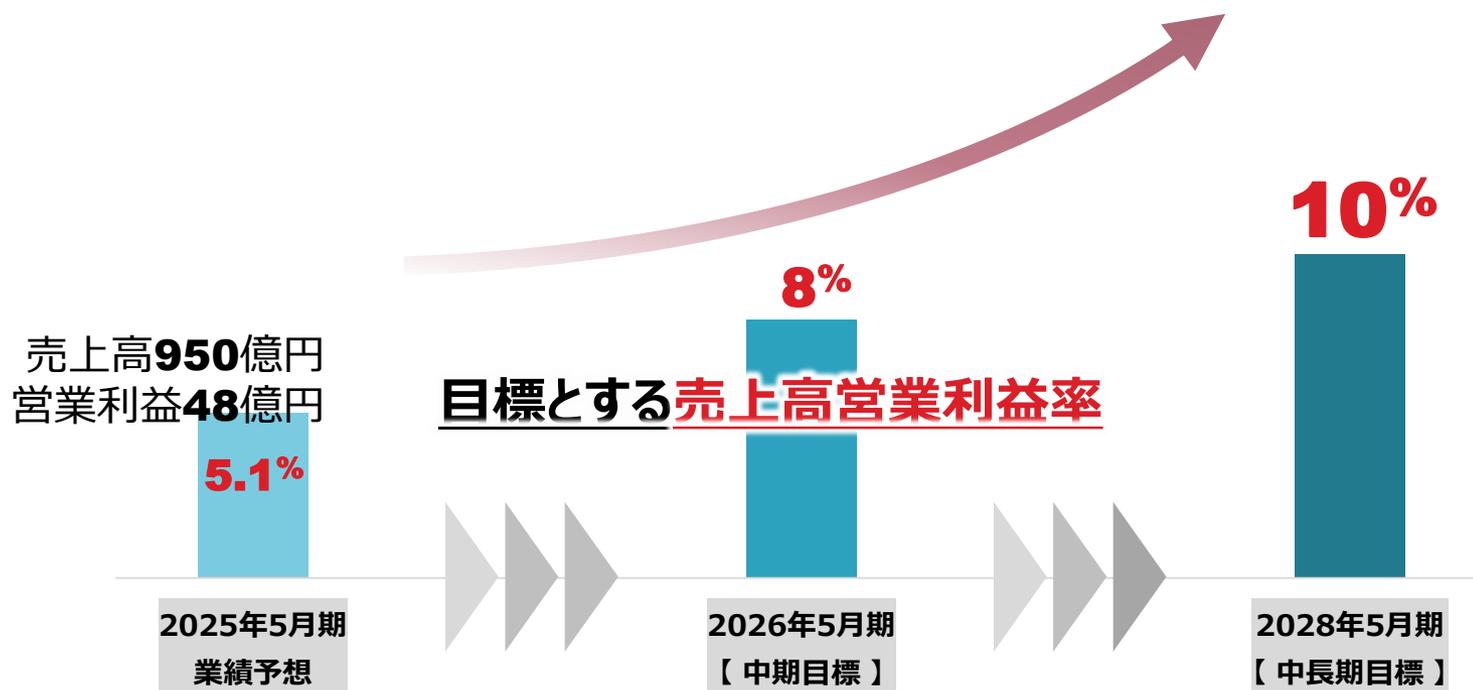
三光合成の強みを生かし、持続的な増収増益で、ステークホルダーの期待に応える
強みは、三光合成ほど“深みと広がりがあるプラスチック専門メーカー”は
世界に存在しないこと Only One





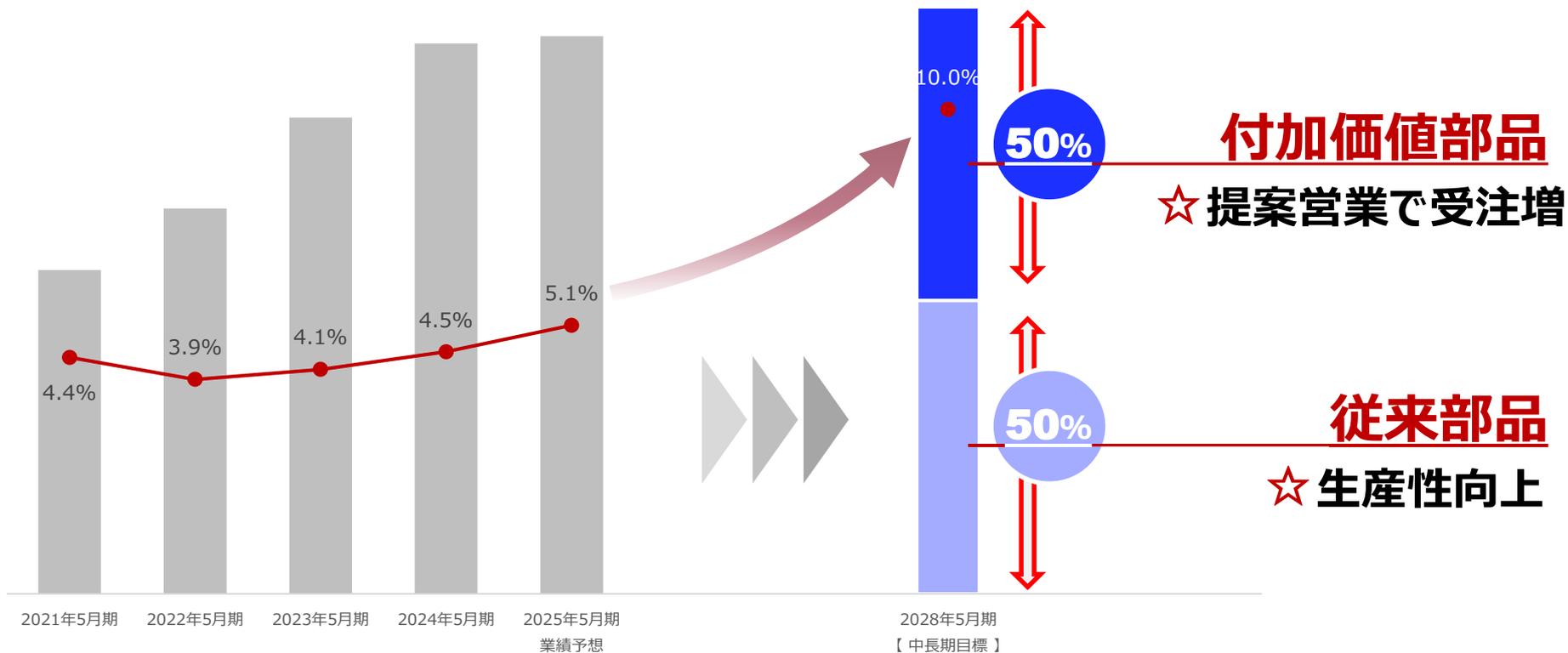
目標 10・10・10 “トリプル10”

売上高 **1,000** 億円・営業利益 **100** 億円・営業利益率 **10%**



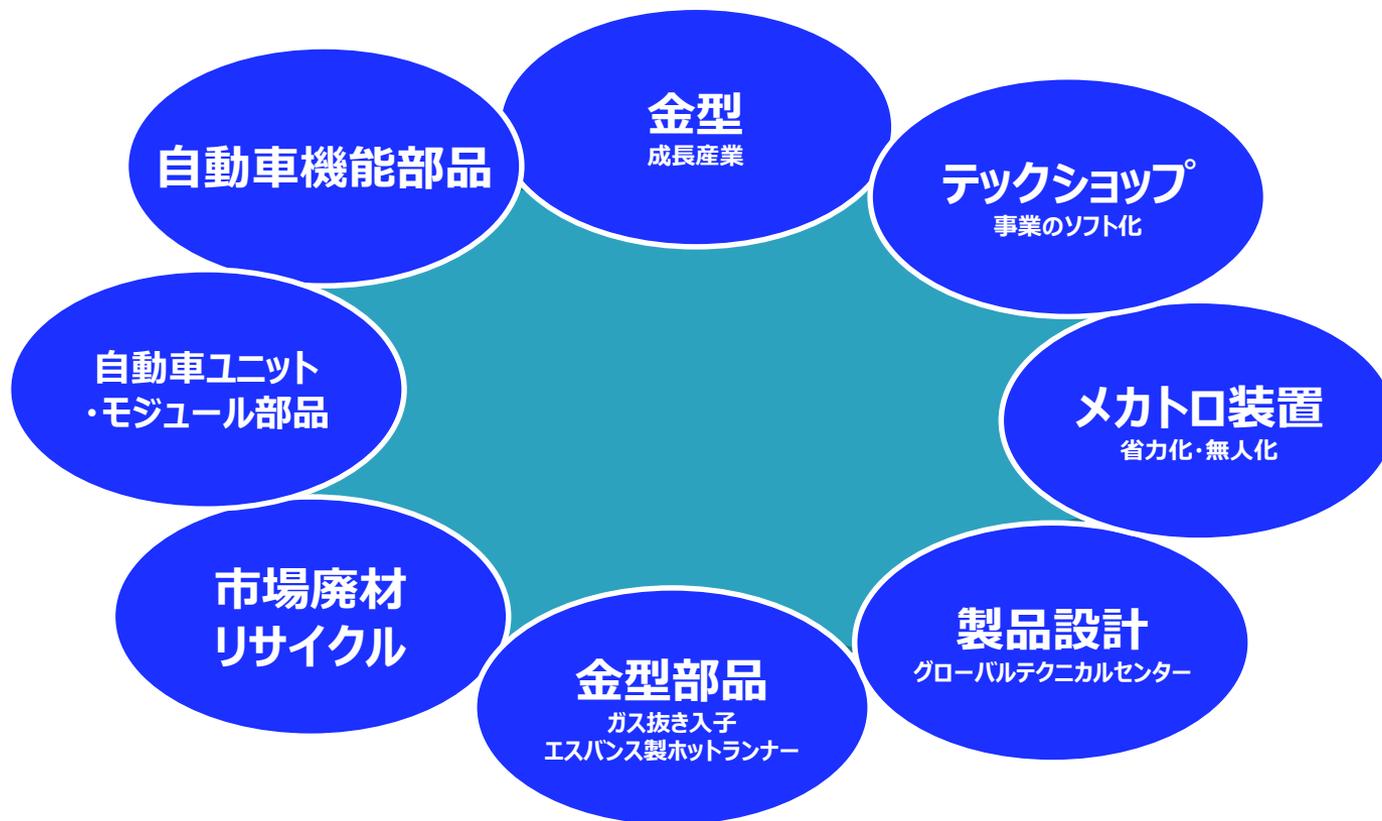


中長期目標 売上高営業利益率10%に向けて目指す売上構成



- 付加価値部品：
“生産ノウハウをベースにした製品設計力”と“業界横断のグローバルでのトレンド情報”を武器にして顧客に提案営業
- 従来部品：
“製品設計”と“生産革新”の複合で時間当たり&1人当たり生産数倍増（生産性2倍活動）推進

営業力強化・受注増を目指す製品候補





社会的な課題（人手不足・リサイクル・米中関税戦争）は三光合成にはチャンス

製品設計強化

自動車業界を中心にエンジニア確保は深刻な問題で、製品設計を含む開発をサプライヤーに委託するトレンド

設計者60人 ⇒ 100人増強、インド・東南アジア・中国・日本のR&D拠点で採用増し、グローバルの設計需要に対応

金型製造強化

ガソリン車・HV・EV乱立のトレンドでの車種増は、部品点数増で金型メーカーには追い風。米中経済戦争もインドと日本で金型を作る三光合成には追い風

インド・富山・大阪の金型製造キャパの拡大及び金型生産効力UP（3Dプリンター等）、製品設計と金型受注の相乗効果もあり

メカトロ部門（省力化 機器）の強化

人手不足への対応と高まる品質要求に応じていくには、ロボット多用による省人化が必要

メカトロ部門25人→50人増強、英国・東欧・米国にもメカトロメンバー配置

リサイクル強化

世の中のリサイクルのトレンドをコストとしてではなく、利益として活動を推進

社内工程から出る廃材再利用ゼロ化推進、市場の廃材プラの再利用推進（NEDO）



■ 自社の技術情報を公開、モノづくりのノウハウを提供する専用の技術情報サイト



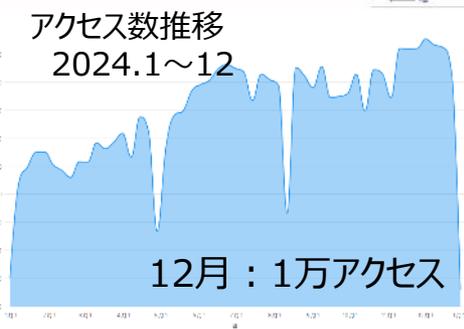
初心者から現場技術者まで
それぞれの悩みを解決する
「問題解決ツール」

日本語

English



技術を知りたい人
技術を使いたい人
それぞれに向けた情報提供を
行うWEBサイトを目指す



アクセスの増加につれて
各種問い合わせも増加

＜既存顧客＞ 問い合わせ事例



サイズ	12μ	30μ
12x5.5x5	○	×
24x10x10	○	○
30x30x15	×	○
30x50x15	×	○



ラインナップ紹介



使用方法や効果紹介
(商談、客先技術者の資料として活用)

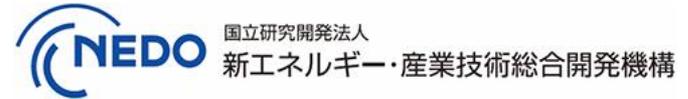
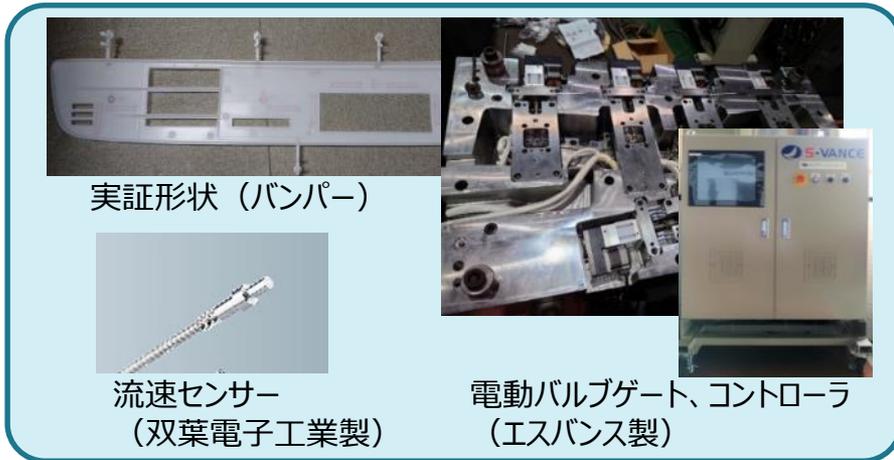
＜新規顧客＞



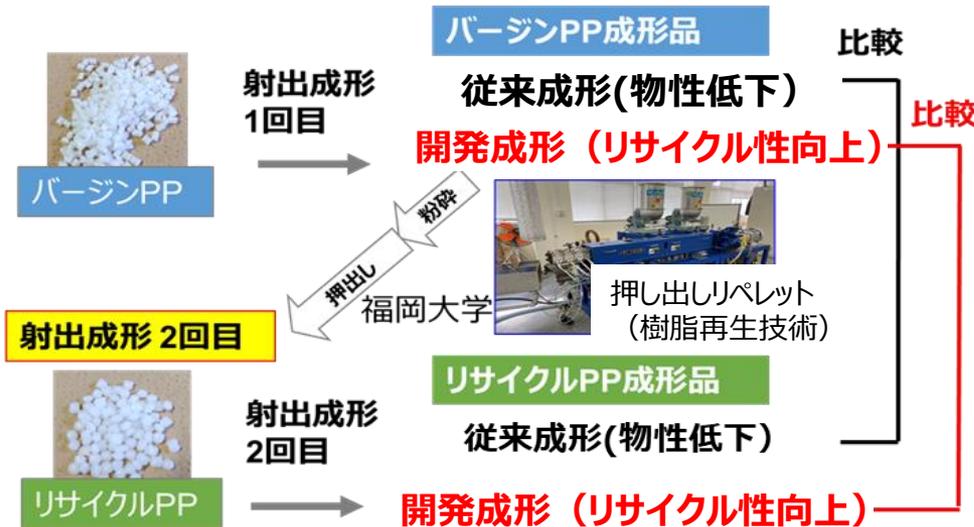
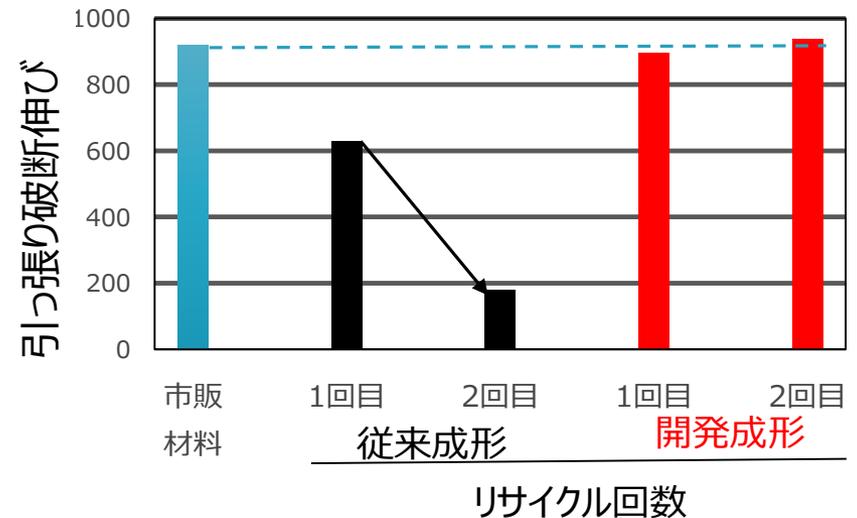
- ・成形品不良対策相談
- ・技術教育資料としての使用許諾依頼



■ 資源循環型社会を見据えた製品製造段階からリサイクル性を向上する技術開発



「革新的プラスチック資源循環プロセス技術開発」
2020年度～2024年度

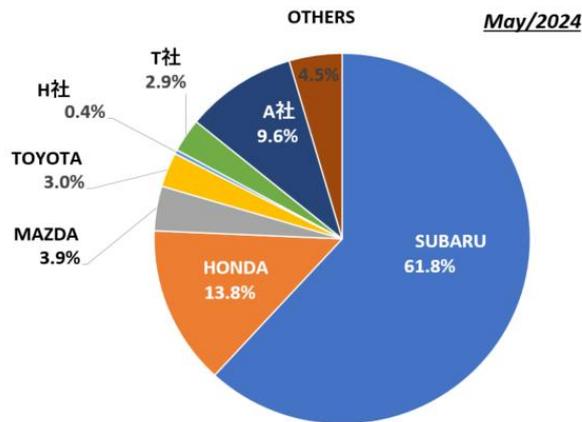


成形方法、金型部品の開発など
(適用拡大の実証中)



SANKO GOSEI TECHNOLOGIES USA INC.

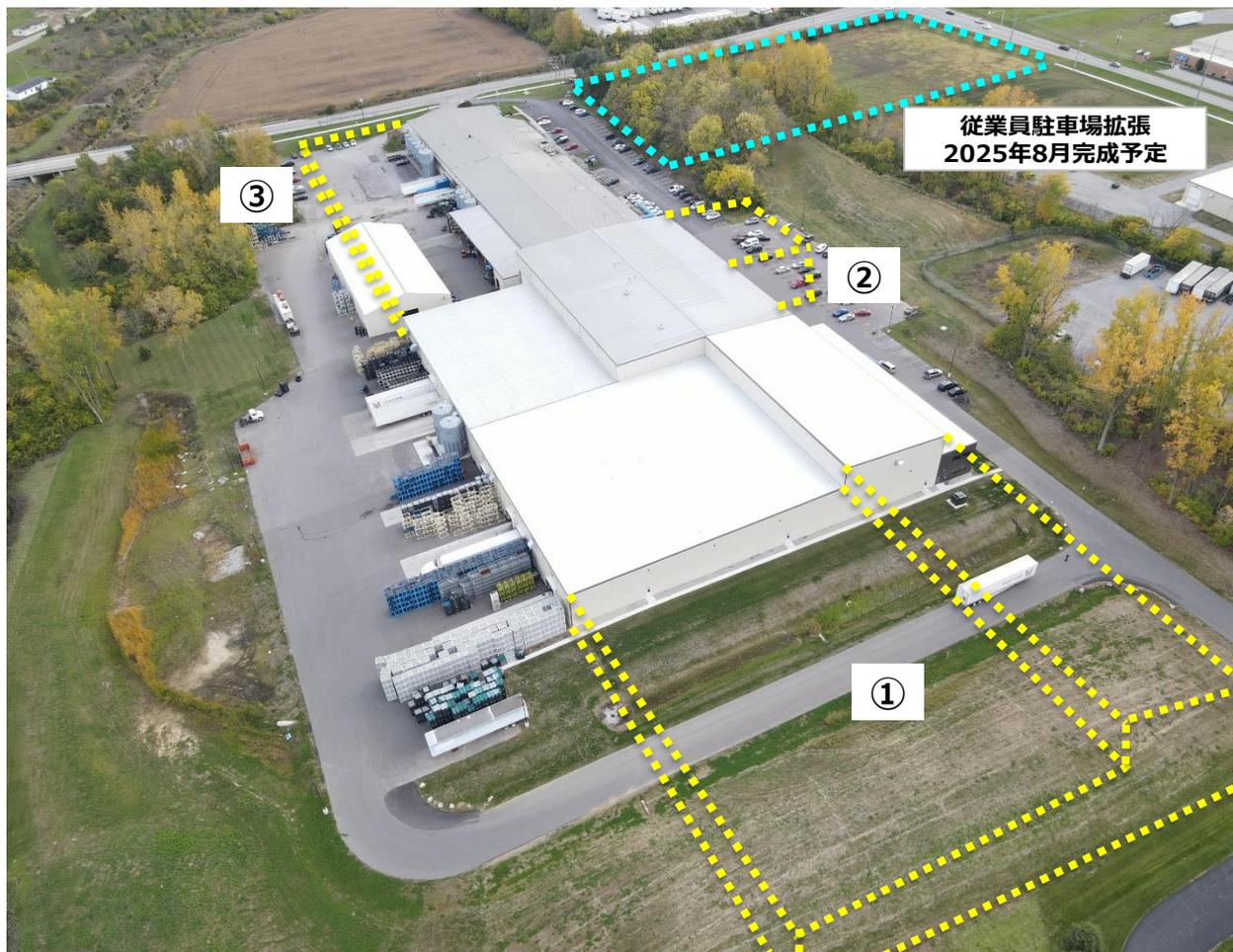
- ・2015年にBhar(米)から事業譲受
- ・SUBARU社との取引が拡大
- ・日系完成車メーカーの電動車受注に向けて追加投資推進中



HEV（ハイブリッド）、BEV（電動車）の新規生産対応で総額100億円規模の投資（建屋・生産設備）を北米で実施



■ 2025~26年に工場の拡張を予定しており、生産キャパシティ増加を計画

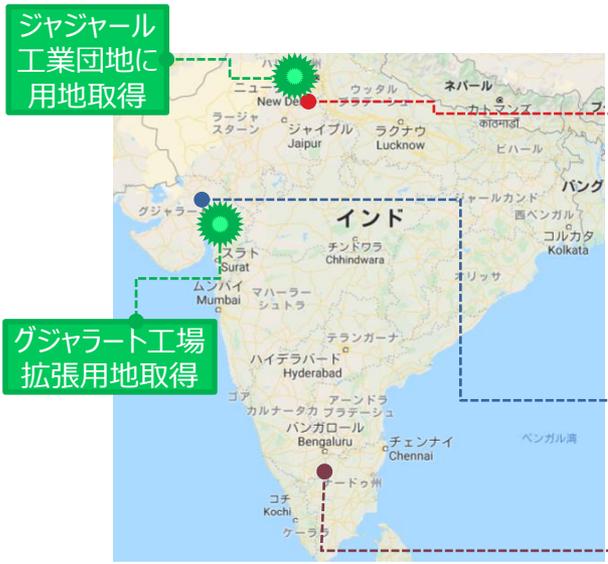


①工場建屋拡張
(5,203㎡)
2025年4月完成予定

②工場建屋拡張
(1,035㎡)
2025年8月完成予定

③工場建屋拡張
(6,205㎡)
2026年4月完成予定

Topic | インドビジネスの状況・・・塗装設備設置・倉庫新設



SANKO SVANCE JRG TOOLING INDIA PVT LTD.
 | ハリアナ州バワル
Tool room (Injection mold maker) | 金型

SANKO GOSEI TECHNOLOGY INDIA PVT LTD.
 < Haryana Office > | ハリアナ州バワル
Parts supply for Home appliance | 家電向け樹脂部品 販売



SANKO GOSEI TECHNOLOGY INDIA PVT LTD.
 < Gujarat Factory > | グジャラート州マンダル
**Injection molding for Automotive & Home appliance
 | 自動車・家電向け樹脂部品 製造販売**



SANKO GOSEI TECHNOLOGY INDIA PVT LTD.
 < Erode Office > | タミルナードゥ州エロード
Design center | 設計事務所

インドの成形会社 (STD)

- ・ジャージャー工業団地に倉庫建設 (デポ対応)
- ・グジャラート工場に塗装設備を設置

インドの金型会社 (SSJT)

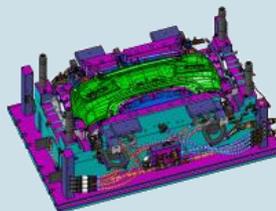
自動車のバンパー金型の製作実績ができ、今後はバンパー金型の継続受注と共に、インパネ金型の製作に取り組む

インドでの設計

現在、製品設計対応者は6名。非常に高いスキルを備えた人材が多い。



インド国内での設計者を更に増加させていく構想。これまでアウトソーシングでの活用だったが、インド国内での需要も高まっている。







■富山県SDGs宣言

基本理念「自然との調和に努める」 | 私たちは、当社の製品が全世界で使用されているという認識のもとに、地球環境と地域社会との共生を目指し、環境保全に配慮し、改善を継続する事業活動を行います。

取組
目標

社員のモラル向上、精神面鍛錬、
そしてお客様へのおもてなしにつな
がる活動の継続

Action

全員参加のトイレ掃除

海外、国内各工場において
経営層から社員まで全員参加のトイレ清掃で
世界一綺麗なトイレを目指す。



取組
目標

プラスチック製品や樹脂材料を海や
陸に廃棄しない

Action

成形不良品のリユース

廃棄向け樹脂製品を粉砕し
再生樹脂材料として使用しリユース率を高めていく。
最終処分場までのトレーサビリティにより
ライフサイクルの視点で責任を持つ。



取組
目標

人権を尊重し、社員のダイバーシティ
を推進

Action

ダイバーシティを推進

女性、高齢者、障がい者、外国人の柔軟な雇用と
働きやすい職場環境を維持改善する。





■カーボンニュートラルに向けた取組み

- ① 日常改善による省エネを推進します。
- ② **再生可能エネルギーを活用します。**
- ③ 生産技術の開発、導入による省エネを推進します。



- ④ 樹脂材料、リユース、リサイクルを推進します。
- ⑤ 不良率低減を含む廃棄物削減を目指します。
- ⑥ 工場および関連施設の緑地化を推進します。

■再生可能エネルギーの受電開始

化石燃料の全体に占める割合：国内工場での電力使用量総合計の40%を達成（2030年目標を前倒しで達成）

富山工場の屋根に太陽光パネルを設置



北陸電力が販売する再生可能エネルギーを活用したメニュー「かがやきGREEN」へ加入



「かがやきGREEN」の加入証明書
（富山工場・テクニカルセンター・大窪工場）

■コンプライアンス研修の推進

階層別研修の充実を図り、会社全体の教育カテゴリーを考察し拡大推進中。

■女性活躍推進に向けた取組み

当社は令和5年度の「とやま女性活躍企業」に認定されました。

「とやま女性活躍企業」とは、企業の成長とウェルビーイング（真の幸せ）の実現に向けて、女性が活躍する県内企業等を県が認定する制度です。



選定基準

- ① 女性の管理職比率 → 産業ごとの全国平均値以上
- ② 時間外労働等の時間数 → 各月ごとに全て45時間未満
- ③ 女性活躍推進に向けた取組み → 具体的な取組みを1つ以上行っている
- ④ 企業内の男女共同参画を進めるチーフ・オフィサーを設置している ほか



◆三光合成株式会社

南砺市土生新1200番地

令和5年度認定

女性の活躍へ向けた中期的な視点で人材育成をすすめると共に、男性の育児休暇取得や、働くお母さんの、育児を含めたワークライフバランスに注力している会社です。



常時雇用労働者数 929人

女性管理職比率 8.4%
女性管理職数 9人



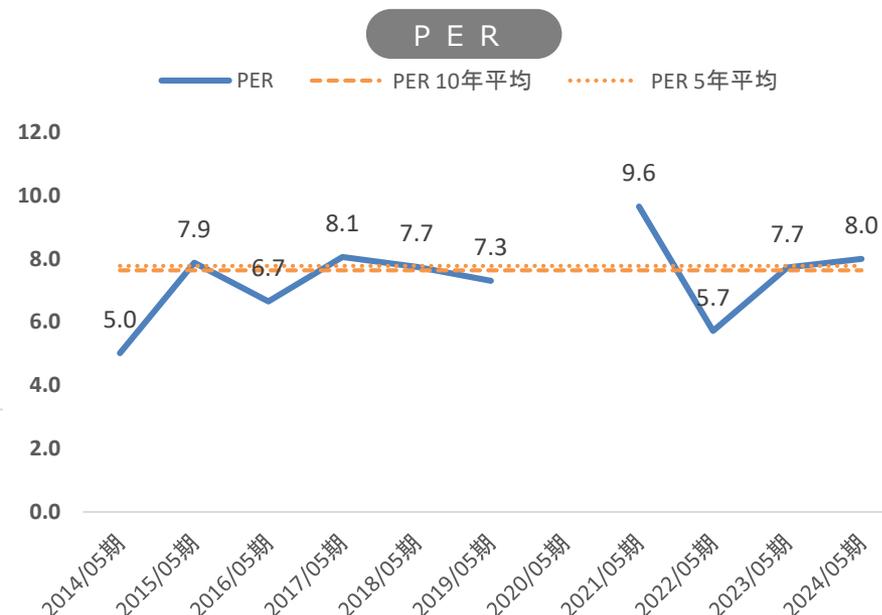
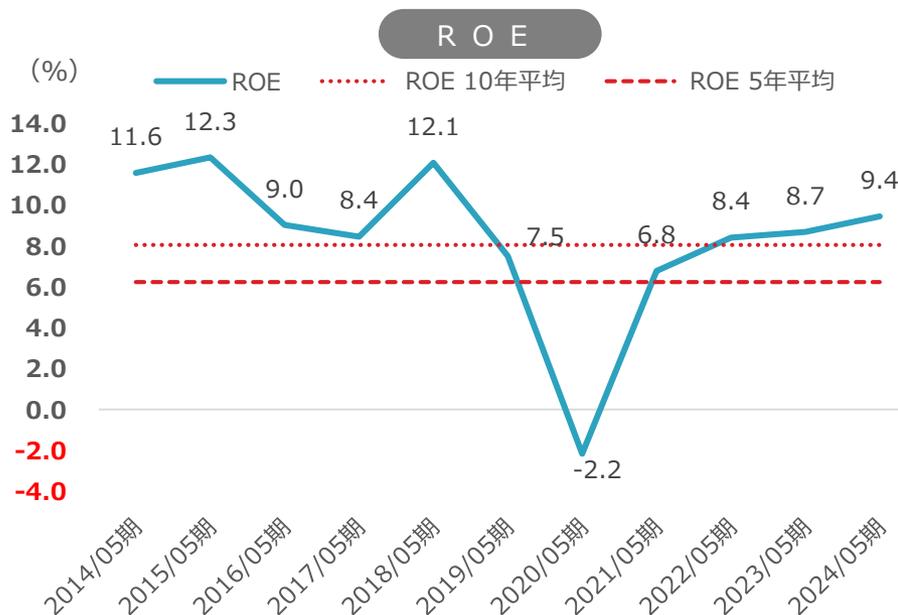
■ PBR1倍超に向けた取り組み

現状分析

現在、PBRは0.7倍とPBR1倍を下回っている状況
 ROEは過去10年平均で約8%、その一方でPERは7倍後半で推移

今後の取組み・方針

ROE：中期目標の営業利益10%を達成することで、ROE向上を目指す
 PER：IR活動の強化により、PERの改善を目指す





このプレゼンテーションで述べられている三光合成株式会社の業績予想、計画、事業展開等に関しましては、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき判断したものです。

マクロ経済や当社の関連する業界の動向、新たな技術の進展等によっては、大きく変化する可能性があります。

従いまして、実際の業績等が本プレゼンテーションと異なるリスクや不確実性がありますことをご了承下さい。また、大きな変更がある場合は、その都度発表していく所存です。